

生物が少ないのは世代交代の狭間か

■生物が少ないのは産卵後の世代交代のためか

今回の調査では、イシガレイやヒラメの稚魚は採集できなかった。すでに外海へ移動したのであろう。

またエビジャコやハゼの仲間も採集されず、蒲生干潟全体の生物が少ないと感じられた。Fig.1は7月に採集したヒメハゼである。腹部が大きくふくれており、抱卵していると思われる。Fig.2は5月に採集したエビジャコでやはり抱卵している。マハゼのように産卵後死んでしまう生物は多い。干潟に生息する生物の多くが、産卵後死んでしまうのであれば、産卵後の今の時期は採集される生物が少なくなる。今の時期は世代交代の狭間で、採集される生物が少ないのかもしれない。



(Fig.1 ヒメハゼ 7月19日採集)



(Fig.2 エビジャコ 5月10日採集)

■ガザミの接岸

新たに設置された同流堤水門の七北田川側でガザミの稚ガニを2匹採集した (Fig.3)。昨年も多くの稚ガニを採集しており (レポートNo.190参照)、蒲生干潟で成長し外海へ移動するのであろう。また、イシガレイ稚魚の餌として重要なイソシジミは多数確認された (Fig.4)。



(Fig.3 ガザミ)



(Fig.4 イソシジミ)